（様式２）【ホームページ掲載用】

研究課題（テーマ）	病棟看護師の退院支援における多職種連携と心理的安全性の関連		
研　究　者	所　属　学　科　等	職	氏　　名
代表者	看護学科	助教	室谷　寛
分担者	看護学科	教授	片田　裕子

研究結果の概要

【背景・目的】

近年、社会状況の変化に伴い、生活習慣病や難病、がんなどの慢性疾患を有する人は、長い経過の中で時に増悪することで入院となり、これまで送ってきた生活のあり方を大きく変えなくてはならなくなってきている。病棟看護師は、そのような慢性疾患を有する人がその人らしく生活できるよう、医師だけでなく薬剤師や理学療法士など多くの医療職種と連携して力を合わせて支援している。

この多職種連携が円滑に行われるためには心理的安全性の存在が重要であると考えられている。心理的安全性とは「みんなが気兼ねなく意見を述べることができ、自分らしくいられる文化」と言われている。また、退院支援は明確な答えのない複雑な課題であり、これを解決するためには、各医療職種が協力しながらチームとして学び・成長しなければならない。つまり、お互いに持っている知識や情報を共有し、ミスやリスクを報告し、意見や考えを述べ、アイデアを提供し、協力して取り組み、結果のフィードバックを受け止めるというチーム学習行動が求められ、そのためには心理的安全性が不可欠なのである。しかし、病棟看護師が多職種連携においてどのようなチーム学習行動を取っているのか、そしてその行動が心理的安全性とどのように関連しているのかについては、まだ十分な調査、研究が行われていない。したがって本研究の目的は、病棟看護師の退院支援における多職種連携と心理的安全性の関連を明らかにすることである。

【方法】

全国の病院の病棟に勤務する看護師を対象に、郵送法による無記名自記式質問紙調査を行った。本研究は富山県立大学看護学部倫理審査委員会の承認（R5-30 号）を得て実施した。

【結果】

調査用紙の配布・回収、データ入力・分析を行った。その結果、心理的安全性が高いほど多職種連携に対して高い肯定的な態度を持っていることが示された。また、多職種連携で取っている行動についての自由記載からは、心理的安全性が活発なコミュニケーションと関連し、多職種で話し合う行動は多職種連携に対する肯定的な態度と関連していた。つまり、心理的安全性が病棟看護師の多職種連携におけるチーム学習行動を支えていることが示された。

今後の展開

今後も様々な対象で調査を重ねることで、本研究で得られた結果の妥当性を確認していく必要がある。本研究の成果は、第 44 回日本看護科学学会学術集会において発表すると共に論文投稿する予定である。